

教専寺新聞

「いのち」

令和五年十二月号

No.241



教専寺ホームページ

四百年目の報恩講

十一月二十二日と二十三日、報恩講法要をおつとめいたしました。

「報恩講」は阿弥陀さまのご本願のおこころを明らかにしてくださった親鸞聖人のご遺徳をたたえ、感謝の思いからおつとめされるご法要です。

今年には皆実町の法光寺ご住職・築田哲雄先生にお取次ぎいただきました。様々なエピソードやご自身の経験をお話なさりつつ、お念仏申すことの大切さをお説きいただきました。

四百年前の一六二三(元和九)年十一月二十三日は、ご本山より「教専寺」の名前をいただいた日です。四百年の歴史とこれまでの有縁の皆さまのご恩を偲びながら、ありがたくみ教えをお聴聞させていただきました。

12月・1月の予定

【除夜会】

12月31日(日)午後11時45分より

【修正会】

1月1日(祝)午前8時より

【御正忌法座～おたんや～】

1月15日(月)午前10時より

【仏婦例会】

12月22日(金)午後1時30分より

【清掃奉仕】

毎週金曜日午後2時より

教専寺では、毎年年末になると「年回表」をお配りしていました。手元に届くと懐かしい方々を思い浮かべながらページをめくられていたのではないかと思います。しかし、近年の個人情報の保護を考えるとお寺でも皆様にお配りすることがむづかしくなってきました。今回から来年のご法事に当たられる方に戸別にお知らせをしております。さみしい時代になりました。

教安寺 【除夜会】 12月31日 午後11時45分～
【修正会】 1月1日 午前10時～

のぞみはありませんが、

ひかりはあります

新幹線の駅員さん

この言葉は心理学者の河合隼雄氏の言葉です。河合氏が新幹線の駅に行った際、駅員さんから「のぞみはもう走っていないですけど、ひかりだったら走ってます」と言われたそうです。おそらく終電が近い時間だったのでしょう。

その時、河合氏は「のぞみはありませんが、ひかりはあります」という言葉を思いつき、本の中で紹介するようになりました。

この言葉を解釈すると、私たちが希望(のぞみ)を失っても、阿弥陀さまのお慈悲の光(ひかり)は私たちを照らしていると受け取ることができます。

私たちは無明とよばれる煩惱の闇を抱えているため、悩みや苦しみから離れられず、希望を失うことが人生の中でしばしば起こります。しかし、煩惱の闇を照らす阿弥陀さまのお慈悲はどんなときでも私を照らしているのです。

私がつたとえどんな状況に置かれても、どんな場所にいても、阿弥陀さまは決して見放すことはありません。大悲無倦常照我(だいひむけんじょうしょうが)。
阿弥陀さまのお慈悲の光は常に私を照らしているので、す。

江田智昭師 (仏教伝道協会職員 北九州市・徳養寺)

本願寺新報二〇二三年十二月一日号「みんなの法話」より